

# Doxifluridine の毒性に関する研究

## 〈第7報〉 ラットにおける26週間経口毒性試験

日本ロシュ研究所 毒性学病理学部

堀井 郁夫 八木下 正行 岡本 敏  
尾野 吉徳 宇高 奎二

### Toxicity Study of Doxifluridine (7)

#### —26 Weeks Oral Toxicity Study in Rats—

Ikuo Horii *et al.*

Department of Toxicology and Pathology, Nippon Roche Research Center

### 緒 言

5'-deoxy-5-fluorouridine(一般名 doxifluridine, 以下 5'-DFUR と称す)は, fluoropyrimidine 系抗悪性腫瘍薬として Hoffmann-La Roche 社で新しく開発された 5-FU の masked compound である<sup>1)</sup>。本剤は, 腫瘍細胞内に高い活性を示す pyrimidine nucleoside phosphorylase により 5-FU に変換され, active metabolite として効力を発現すること<sup>2)</sup> から, より高い有効性と安全性が期待される薬剤である。

今回, 5'-DFUR のラットに対する26週間連続経口投与による慢性毒性試験を行ったのでその成績を報告する。

実験期間は1980年6月から1981年6月までである。

### I 実験材料および実験方法

#### 1 被験薬物

被験薬物 5'-DFUR は, 化学名を 5'-deoxy-

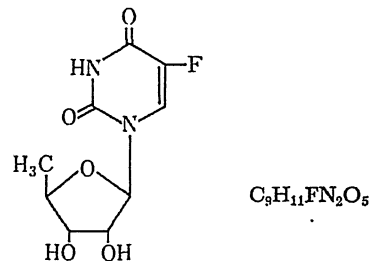


Fig. 1 Chemical structure of 5'-DFUR

5-fluorouridine と称し, 分子量246.20, 水に約7% (w/v) 溶解し, エタノールに可溶性白色結晶性粉末である。その構造式を Fig. 1 に示す。

#### 2 動物および飼育条件

雌雄の Sprague-Dawley 系ラットを日本チャールス・リバー(株)より4週齢(雄75~85g, 雌70~80g)で購入し, 約1週間の予備飼育の後, 順調な発育を示し, 体重が雄で110~140g, 雌で90~120g に増加した健康な動物を試験に供